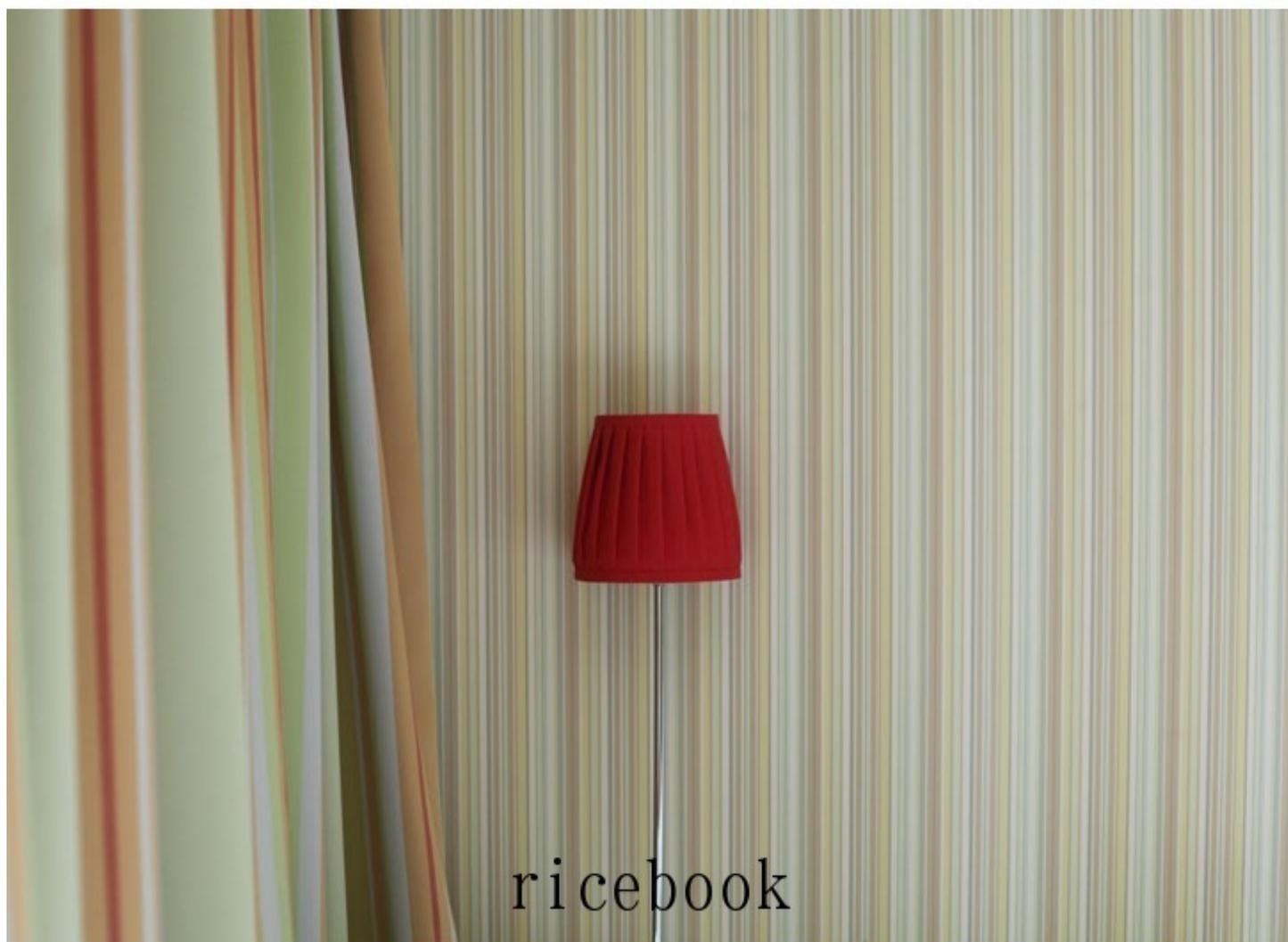


路面電車



ricebook

路面電車

僕は今、路面電車に乗っている。この路面電車で、いつもと違う光景がただ一つ・・・
普段、敷かれたレールの上を走っているはずの路面電車が空を飛んでいる。というような
大きな違いではないけれども、そこには、明らかな違いがあった。

これは、ある中学生の不思議な1日を描いた物語である。

搭乗

僕は今、路面電車に乗っている。最近、あまり乗ることがなくなっていた。中学生になり、1人で出かけるときも、友達とどこかへ出かけるときにも基本的には自転車が主な交通手段となっていた。しかし、今日はあいにくの雨であり、この雨の中、自転車をこごうと思うほど物好きではない。

今日は、日曜日で、1人で映画を見に行こうと、家を出た。最寄りの乗り場までは500mといったところか、近いのか遠いのかもよくわからない距離ではあるが、傘をさして歩くには、多少だるさを伴う距離である。

乗り場は屋根が無かったが、2, 3分だけ耐え電車に乗った。今は、昼前で雨というのに、お客さんが少ない。むしろ、運転手しかいない。僕は、若干、いや、かなりおかしい思ったが、目的地までは、ほんの15分なので深く考え込まないようにした・・・

電車で揺られながら、しばらく乗っていると、運転手さんが声をかけてきた。「どこへ行かれますか。」僕は、不思議に思ったが、「映画館へ。」と答えた。それから、沈黙が続いた。見慣れた電車に、見慣れた眺め、いつもと違うのは客がいないことと、変な運転手がいること。

昔から乗っていた電車、何も起こると思っていなかった。とりあえず、持ってきた暇つぶし用の漫画でも読もうと、リラックスしていた。しかし、運転手さんの「着きましたよ」という声にハッとした。なんと、いつもなら15分もかかる道程がほんの5分で着いてしまった。うれしい誤算であるといってしまうえばそれまでだが、それで終わらしてしまうわけにはいかない。運転手さんに聞こうとも思ったが、そんな勇気もなかった。

この現象を追求しようと思ったが、雨の中、走って電車に追いかけるほど愚かではない。とりあえず、映画でも見ようと映画館へ入った。

再び

映画を見て終わり、帰りも路面電車に乗った。夕方近くではあったが、電車の中には僕のほかに客がいる。今回もこの不思議な現象が起きるのかと期待と不安を持っていたが、完全に裏切られた。電車に乗ってから、家の最寄駅に着いたのは15分弱。これでも、早いほうである。まず、路面電車というのは各駅で止まり、信号や交通状況に影響されるものであるにもかかわらず、5分という時間は考えられない。

この日から僕は、日曜日の同じ時間に路面電車に乗ることにした。この儀式は2か月程続いたが、同じ現象は二度と起こらなかった。あの日起きた現象は何だったのだろう。その後、どのくらい経ったであろうか、徐々に記憶が曖昧になってきた頃、自転車で目的もなく市内を走っていたとき、隠れたように茂みの中にあるおかしいレールを発見した。

終着？

草に囲まれているそのレールは城跡の森の中へと入っていく。明らかに使われている気配のないレールであったが、どこか新しい雰囲気のあるレールであった。どんどん引きずられるようにレールを辿っていく。すると、洞窟があり、洞窟を下って行くようにレールが敷かれていた。そこは、電車1台のスペースしかなかった。電車が通れば僕はどうなるのだろうと思いながら、洞窟の中を進んでいった。洞窟の中の灯りとレールを頼りに後ろを振り返ることも許されないように進んでいった。

洞窟の中の灯りとは明らかに違う光が見えてきたとき、後ろから、「ガタン、ゴトン」という音が聞こえてきた。まだ距離はありそうだが、全力で走った。すると、とてつもなく大きな声が響いた。「バカモンが〜！！」とりあえず、声の大きさは鼓膜が破れるほど大きいと言ったらわかりやすいか。そのくらい大きかった。通ってはいけない場所であるとは、だいたい気づいてはいて、人がいたら怒られることも想定していた。ただ、これは、想定していなかった。

路面電車には、県庁前という駅がある。そこのそばにある立ち入り禁止の標識を超えたところにある地下。いつもは、24時間体制で警備員がいて、近くを拝むことすら許されない、都市伝説的存在であった。そこには、刑務所がある。極秘の資料が置いてある。大型の核シェルターがある。などといった憶測がなされていた。しかし、まさか・・・この路面電車のレールがそこに、つながっているだなんて。

たっぷり、怒られたあと、こんな所を路面電車が通る理由を教えてもらった。それは、役所の方が急ぎの用の際に地下から電車に乗るからだそうだ。この電車を使えば、時間が半分以下に短縮できるそうだ。これを聞いて、おそらく僕が漫画を読んでいる間に、ここを通ったのだと思った。そう、思いたい。まあ、あの時の運転手は後からこっぴどく怒られたであろうけど。今日の出来事は、だれにも言わないでおこうと決心した僕なのでした。